

令和3年第3回魚沼市議会定例会
一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
9月13日（1日目）			
1	14	佐藤 肇	一問一答
2	7	大桃 俊彦	一問一答
3	5	浅井 宏昭	一問一答
4	6	星野 みゆき	一問一答
5	4	星 直樹	一問一答
6	16	森島 守人	一問一答
7	1	桑原 郁夫	一問一答
8	2	横山 正樹	一問一答
9月14日（2日目）			
9	3	佐藤 達雄	一問一答
10	12	遠藤 徳一	一問一答
11	15	高野 甲子雄	一問一答
12	9	富永 三千敏	一問一答
13	13	渡辺 一美	一問一答
14	17	本田 篤	一括
15	10	志田 貢	一括
16	8	大平 恭児	一問一答

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

令和3年第3回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和3年9月13日（1日目）

1番（議席14番）佐藤 肇 一問一答

【メモ】

1. 交通安全政策を問う

本年6月、千葉県八街市でトラックが下校途中の児童の列に突っ込み、2名が死亡、3名に重傷を負わせる事故があった。

この事故を重く受け止めた千葉県と八街市は、市内全ての通学路の安全点検や緊急対策を実施している。また、国も全国の都道府県を通じ通学路等の安全点検と危険箇所の改良を命じている。通学路がより安全になれば、通学する児童生徒はもとより、地域の高齢者にも優しい道路となる。

- (1) 8月3日に交通安全対策会議が開かれたようだが、この会議はどのようなメンバーで構成され、どのようなことを決定する会議なのか。また、しばらく開催されてこなかったようだが、その理由は何か。
- (2) 交通安全指導員は、地域に出向き、地域PTAなどと一緒に交通安全教室などを実施しているが、ほかにどのような活動をしているか。また、各種事業は市からの要請で実施しているのか、それとも指導員独自の判断で行っているのか。また、交通安全指導員の立場と権限、その処遇はどうか。
- (3) 以前はパトカーのような白黒の車両で市内を広報やパトロールしている姿をよく見かけたが、最近見かけなくなった。パトロール活動のやり方が変わったのか。
- (4) 市は通学路の安全点検として交通安全プログラムを毎年実施している。そこで調査した危険箇所等の情報は、交通安全指導員にも周知、共有されているか。
- (5) 市は公益財団法人新潟県交通安全協会の下部組織である魚沼市交通安全協会に団体運営費補助金を支出している。この協会の業務は、自動車バイクの運転免許証更新事務の代行、運転者に対する安全運転講習指導など多岐に及ぶが、補助金はどのような内容に使われているか。
- (6) 市のホームページに掲載されている通学路危険箇所点検結果一覧を見ると、対策方針として、「検討する」とか「協議する」との文言があり、実施年が記されているが改善したのかどうか分かりにくい表記となっている。令和2年度までに対策が完了した割合はどうか。

- (7) 新たな横断歩道や信号機の設置について、警察はできないと回答しているものも多いと聞く。警察ができないのであれば、これに代わる対策も検討しなければならないと考えるが、市はどのように対応しているのか。
- (8) 通学路危険箇所点検結果一覧のほかにも横断歩道設置の要望がある地点がある。例えば、四日町地内の県道下倉小出線と中ノ島中田線の交差点付近の庭山医院の所や井口新田地内の県道小出奥只見線と井口新田6号線の交差点などがある。また、国道252号、金ヶ沢地内にも押しボタン式信号機と横断歩道の設置を望む声があるが、そのままになっている。市は既に現地調査をしていると思うが、見解はどうか。
- (9) 魚沼市では、交通対策は生活環境課、市道の維持管理、修繕などは建設課、通学路の安全対策は教育委員会が所管となっているが、それぞれの部署と横の情報共有や連携がうまくいっていないように感じる。横断歩道設置、歩道整備、信号機設置など、このほかにも地域からの改善要望がある。交通安全関係要望一覧として市民要望と通学路危険箇所点検結果を一緒に集計し、公表してはどうか。また、その対策を実施する所管部署を明確にすべきと考えるがどうか。
- (10) 八街市の事故を受け、国や県から市に対し市道通学路の点検、改善要請が来ていると思うが、市はどのように対応したのか。また、逆に市として国や県の道路管理者に対し危険箇所の改善を強く要請すべきと考えるがどうか。
- (11) 歩行者が危険と感じるのは、運転手側にも要因がある。市街地道路での速度超過や横断歩道に立っていても止まらない車が多い。交通ルールを守らない運転手に対する指導はどのように考えているのか問う。
- (12) 自転車は軽車両に分類され、道路交通法の順守が義務づけられているが、右側通行、交差点の斜め横断、信号無視、一時停止で止まらない、雨の日の傘差し運転など見かけることもある。このような人たちに対する指導はどのように考えているか。
- (13) 街路灯、防犯灯を設置することで、夜間の視認性が改善され、交通安全にも大きく貢献する。これらは地域要望により市が設置し、管理はその自治会が行うことになっているが、市街地であっても街路灯、防犯灯が設置されていないところがある。例えば、本町日渡線の清水川辺神社の所から小出病院の入り口の間。ここは、後になってから整備された路線で、道路に面して電力の電柱が一本もなく、電気を引いた

りする工事が容易ではないと聞く。自治会の要望を待つまでもなく、このような所には道路整備の一環として市が街路灯を設置すべきと考えるがどうか。

2番（議席7番）大 桃 俊 彦 一問一答

1. コシヒカリ紅葉マラソン実施について問う

コシヒカリ紅葉マラソンは2年にわたり中止されたが、今年こそはと実施の方向で話が進められている。

- (1) コシヒカリ紅葉マラソンの開催決定に至った理由は何か。
- (2) 実行委員会の中ではどのような議論がされたのか。
- (3) おにぎり、けんちん汁、もつ焼きなどの魚沼名物の提供はないが、参加料は従来どおりということである。これで1,000人の参加者が望めると考えるか。
- (4) 新型コロナウイルス感染者が発生した場合の責任を含め対応は考えているか。

2. 豪雨災害時の対応策について問う

7月29日に佐梨川上流で発生した大雨により、下流へ濁流が押し寄せる様子を捉えた動画が全国的に紹介された。

- (1) 今回タイミングよく濁流の撮影ができた理由は何か。
- (2) 過去にも発生があったと思うが、どのように周知していたのか。
- (3) 下流へ危険を知らせる方法は検討しているか。

3番（議席5番）浅 井 宏 昭 一問一答

1. 新電力の導入について

電力の小売全面自由化により、2016年からどの会社でも一般家庭等に向けて電力の小売ができるようになった。

その電力自由化によって新たに参入してきた、大手電力会社以外の電力会社のことを「新電力」と呼ぶ。

- (1) 本庁舎、ガス水道局、北部事務所など市有施設の年間電気代の合計はどうか。
- (2) 本庁舎をはじめとする市有施設の電力契約はどのようになっているか。
- (3) 県内で新電力に切り替えていない自治体は、魚沼市、上越市、妙高市などで、多くの自治体が新電力に切り替えている。魚沼市が新電力に取り組めていない理由は何か。
- (4) 行政は市民の税金で賄っているので、電気代を安く抑え、市民からの税金を大切に使うことは自然なことである。行政コストを下げている考えはないか。

4番（議席6番）星 野 みゆき **一問一答**

1. コロナ禍における経済支援について
 - (1) 中小事業者経営継続支援事業について、前回の一般質問で件数を確認したが、その後の受付件数はどうか。
 - (2) 魚沼市感染症対策認証店舗設備導入支援金及び魚沼市コロナ対策頑張る事業所応援奨励金について、それぞれの受付件数はどうか。
 - (3) 新型コロナウイルスに関する様々な支援事業は、どのように事業者へ告知しているか。
 - (4) 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、現在よりもっと厳しい経済状況になることも考えられる。どのように捉えているのか見解を問う。
 - (5) どのような業種でプレミアム付商品券が多く利用されたのか。調査等は行ったのか。
 - (6) 市内事業者の事業経営が厳しい状況であることは間違いない。今後新たな経済対策が必要と考えるが見解を問う。
2. 新型コロナウイルスのワクチン接種について
 - (1) 20代のワクチン接種率はどうか。
 - (2) 16歳から18歳のワクチン接種率はどうか。
 - (3) 12歳から15歳のワクチン接種の予約が始まったが、予約状況はどうか。
 - (4) ワクチンの確保量により、現在予約できる1回目の接種日は10月8日までとなっている。今後の見通しはどうか。
 - (5) ワクチン接種を希望しない市民に対する今後の対策は考えているか。

5番（議席4番）星 直 樹 **一問一答**

1. コロナウイルス感染症の15歳以下のワクチン接種について
 - (1) ワクチン接種がスタートしたが現状や問題点はどうか。
 - (2) 接種が進んだ場合、接種者と未接種者で区別するようなことがあってはならない。学校内でのルールも一緒に考えているか。
 - (3) 今後、3回目、4回目と接種が必要になることが予想される。今回未接種を希望した生徒が、今後接種を希望した場合のフォロー体制は整っているか。
2. ふるさと納税について
 - (1) 寄附者が選べることのできる、「寄附の使い道」を見直す考えはあるか。

(2) 使い道の1つ「かがやく魚沼応援隊」では、市長がふるさとの発展に寄与すると認める事業の財源に充てるとなっている。漠然とし過ぎていると思うがどうか。

(3) 災害発生時に即座に使えるよう、寄附の使い道に「災害支援」を追加してはどうか。

3. マイマイガ発生への対応について

(1) 紫外線を発する照明に集まる習性を持っている。LED照明に切り替えるなど、今後の対策は練られているのか。

(2) 大量発生時に産み落とされた卵が見受けられる。駆除は行わないのか。

6番(議席16番) 森 島 守 人 一問一答

1. 住宅リフォーム関連支援事業について

(1) コロナ禍の経済対策も考慮し、毎年度不足する予算額について、新年度予算への反映はどのように考えるか。

(2) 市民及び業者の状況を考慮し、補助事業の工期確保の観点から、本事業における繰越制度の導入を検討し、冬期間を含めた通年工事が可能な執行体制の導入を考えてはどうか。

(3) 市民から、純粋な解体工事(減築)が必要な場合もあるとの声を聞いた。解体のみの工事も事業対象へ加える考えはないか。

2. 水道施設の課題及びスマート水道メーター化について

魚沼市の課題として、人口減少・少子高齢化により、空き家や高齢者世帯が増加していることから住宅の管理、特に上下水道設備の維持管理が十分になされていない状況が想像される。現状にあっても水道メーターの設置場所によっては検針作業に危険を伴う箇所があり、検針できない箇所もあると聞く。

(1) 数年前には寒波による水道管の凍結破損により、本県を含む北陸地方で広域的な断水が長期間にわたり続いた。こうした被害を未然に防ぐには日常的な漏水監視が必要と考えるが、どのような対策が取られているか。

(2) 市民生活、経済活動の基盤となるライフラインの強靱化を図るとともに、検針データの活用方法によっては、高齢者世帯の見守りにも活用でき、多面的な住民福祉の向上にもなる。情報通信技術の進展により、基盤強化やサービスの向上に向け、スマート水道メーターを取り入れてはどうか。

3. コロナ感染症による自宅療養者の対策について

国内の新型コロナウイルス感染者は8月上旬で150万人を超えた。いまだ終息の気配もなく、新規感染者や重症者数は連日更新され、病床不足が大きな問題になっている。また、急増する地域では自宅療養を基本とする政府の方針もあり、大きな課題になっている。

(1) 県内の自宅療養者は900人と聞くが、魚沼市に療養者(待機者)はいるか。

(2) 今後病床不足が生じた場合の対応はどうか。

4. 令和4年度予算編成及び魚沼市の将来像について

コロナ禍により疲弊した地域経済に息を吹き込み、一気にアクセルを踏み込んでいくには、今からコロナ禍の終息後を見据えた次の一手を考える必要がある。このアフターコロナの取組に向けて、令和4年度予算編成を控えた現在、庁内の英知を結集させて検討していくべきと考える。どのような予算編成を考え、まちづくりをしたいのか問う。

7番(議席1番) 桑原郁夫 一問一答

1. 魚沼市カーボン・オフセット事業について、その目的と目標を問う

魚沼わくわく森のクレジットを利用している企業や団体の、令和3年8月現在の数と金額はどうか。また、この資金を利用してどのような事業展開を策定しているか。また、その目標と実績はどうか。

2. 市内で耕作放棄されている農地が多くあると認識しているが、その面積と対策を問う

高齢化による担い手不足と農家以外の方が相続する事例などにより耕作放棄されている農地が多く見られるが、その対策及び進捗状況はどうか。

3. 都市ガスの過去10年間の推移と人口減に伴う使用量減少に関する今後の対策について問う

魚沼市のメリットである都市ガスの利用は、人口減少やオール電化住宅などの普及により減少している。東京ガスや北陸ガスは10年も前からガスによるコージェネレーションシステムを利用し、近年は安く安全で省エネな機器を販売し普及している。魚沼市の実績と今後の目標と対策はどうか。

8番（議席2番）横山正樹 一問一答

【メモ】

1. 魚沼市の教育について教育長の所見を問う。

- (1) 温かい学級づくり支援事業がスタートしてから6年が経過した。この6年間の学力向上といじめ・不登校児童生徒の減少、学級満足群の成果と課題、今後の取組について教育長の所見を問う。
- (2) 令和2年度の中学校の不登校生徒26人、出現率3.1%をどのように捉えているか。また、不登校児童生徒を生まない学校運営についてどのように考えるか。また、不登校児童生徒の自立に向けてどのような支援を行っているか。
- (3) 慢性的な病気や障害、精神的問題やアルコール依存症等を抱える家族の世話をしている子どもの実態やその支援対策について、魚沼市はどのようになっているか心配である。今後ヤングケアラーについての研修が必要と考えるが、教育長の所見を問う。

2. コミュニティ協議会の役割とその仕組みについて

(1) 地域の課題解決に向けたコミ協組織の在り方の検討を

- ①各地域には様々な課題が山積し、住民アンケートによる集落点検結果から、より課題が明確になってきた。その課題解決を図るには、現在の各集落から選出された委員だけで取り組むには厳しいと考えるが、市長の見解を問う。
- ②地域の課題解決を図るには、現在のコミュニティ協議会組織の在り方を検討し、課題に関わる団体や組織と協働できる仕組みづくりが急務と考えるが、市長の見解を問う。

(2) コミュニティセンター方式で地域づくりができないか

- ①地域の様々な課題をコミュニティ協議会と公民館の融合した地域コミュニティセンター方式で解決できないか地域創生課と生涯学習課で協議を進め、実情に合った具体的な地域づくりの推進が必要と考える。市長の見解を問う。
- ②コミュニティ協議会の活動が活発化すると、必要物品の収納場所や会議のできる場所、事務員の必要性が出てくる。コミュニティ協議会の会議等ができる拠点を設置してはどうか。

3. 国道252号の観光案内標識の設置について

魚沼の観光誘致のイメージアップを考えたとき、各主要道路分岐点等に「魚沼の宝」の案内表示板設置は有効と考える。設置する考えはないか、市長の見解を問う。

9番（議席3番）佐藤達雄 一問一答

1. 小出病院の充実について

- (1) 魚沼圏域地域医療構想調整会議では、厚生労働省主導の形で病床数の削減が検討されている。2025年時点の魚沼圏域の病床数を現状より130床余り削減する計画となっているが、何を根拠に削減しようとしているのか。
- (2) この調整会議の委員はどのような方々で構成され、その委員構成はどのように決められているか。また、広く地域住民の考え方、自治体の考え方が反映される会議となっているか。
- (3) コロナ蔓延地域では入院できずに自宅待機せざるを得ない人が続出している。魚沼地域でも感染拡大時には一挙に医療が逼迫し、同様の状態になる恐れが充分にある。病床数は常に余裕を持たしておくべきと考えるがどうか。

2. 特別養護老人ホームの増設について

- (1) 旧堀之内病院療養棟を視察したが、特別養護老人ホームとして増改築する場合、入居者の部屋は個室を原則とする増築は必要だが、厨房や入浴施設等完備されおり、この施設は特養ホーム候補として適していると考えがどうか。
- (2) 介護職の処遇改善策として、資格取得に対する補助制度の新設は一つの大事な方策であると思うが、この制度のみで十分な処遇改善とはならないと考えるがどうか。また、市は市内全介護事業者に対し人材確保のために何が必要か、しっかりした調査を行うべきと考えるがどうか。
- (3) 夜勤手当の補助制度を行っている自治体もある。処遇改善の一つの方策として検討すべきと考えるがどうか。

3. 生活保護申請時の扶養照会は、本人の意向を尊重すべき

- (1) コロナ禍で生活困窮者が増えているが、生活保護申請することをためらう大きな壁が扶養照会である。申請者が扶養照会を拒む場合は、本人の意向として充分尊重すべきと考えるがどうか。
- (2) 市内で扶養照会を行った際に、何らかの援助が可能と回答した割合はどの程度か。

10番（議席12番）遠藤徳一 一問一答

【メモ】

1. パラリンピックスポーツの普及と環境整備について

東京2020オリンピック、パラリンピックイヤーを契機に、障害者スポーツ、生涯スポーツにも焦点を向け、取組の門下を広げる活動、環境を整備し、誰にも優しく参加しやすい施設整備に力を入れ、各種行政計画と関連づけながら魚沼市のまちづくりを発展させるべきと考える。

- (1) スポーツ推進計画や第5期魚沼市障害者計画、第6期魚沼市障害者福祉計画等でもパラリンピック理念等に基づく普及、振興的な部分がないように思う。特にスポーツ推進計画では東京オリンピックを意識したアンケート結果は掲載されているがパラリンピックに関する調査はないように感じた。今後計画に反映させていく考えはあるか。
- (2) 魚沼市障害者計画ではスポーツ、レクリエーション及び文化芸術活動についてのアンケートを実施し、状況確認をしている。お手伝いできるスタッフ、仲間、道具の整備等一定の条件が整備できれば取り組めると考えるがどうか。またアンケート結果をどう反映させていくか。
- (3) 公共施設の利活用も視野に入れ、特色あるパラリンピックスポーツ、生涯スポーツの普及を図り、市内外に浸透させ「心身共に健康なまちづくり」を市のイメージとして押し上げてはどうか。
- (4) 特色あるスポーツ施設を整備、振興することにより、定住施策、医療介護政策等、各種行政課題の取組になると思う。市独自、あるいは近隣市も含め、市民も楽しめ、パラリンピックスポーツの普及や競技人口の増加にもつながる、水泳競技、陸上競技等の施設建設の構想を打ち立てないか。

2. 犯罪被害者支援条例の制定に取り組まないか

新潟県は犯罪被害者支援条例を策定し、犯罪抑止の啓発、見舞金、支援体制、支援員の育成等を掲げ、啓発活動等に取り組んでいる。魚沼市も犯罪被害者等盛り込んだ条例制定は行っているが、これまで適用となった実績、具体的に現社会に適合した対策や取組はどうか。また、社会犯罪、交通の無秩序化と犯罪や各種事故における多様化は、弱者である市民には防ぎようのない実態がある。安心して暮らせる魚沼市として発信していく必要があると思うがどうか。

3. 小出郷図書館の今後について問う

小出郷図書館の入る建物は、小出商工会の賑わいの核になるとの請願を受け購入に踏み切ったが、借地解消や市有地の整理

の必要性から購入段階から異論があった。購入に際しては商工関係者や一般市民等交え、活性化策や行政サービス、利便性の向上などを検討するワークショップの開催など言われていたが市民の声一つ拾う姿勢が見えない。今後どのような展開を考えているか。

- (1) エリアリノベーションの専門家等交えた市民ワークショップ等行う予定はあるか。
- (2) このエリア内の、この建物としての役割や責務、庁舎、病院、今後検討がなされる旧小出庁舎跡地の図書館構想等周辺環境とのつながりをどのように捉えるか。
- (3) 蔦屋書店ではまちなか環境を生かし、レンタルビデオコーナー等を廃止し、誰もがその空間に居たくなるようなスタイリッシュなコワーキングスペースを開設し、地元産食材の軽食を提供するように経営方針を変えてきている。地元業者の雇用の場創出を条件に、大手商業店舗に周辺環境も企画してもらおう等の考えを持たないか。

11番（議席15番）高野 甲子雄 **一問一答**

1. 学校教育で弁当作りによる食育の推進、充実を

「食の貧困」が言われ、子ども食堂が増える中、コシヒカリの里、「魚沼市の子どもたちは食事づくりができる」が誇れるよう、学校教育で弁当作りによる食育推進を図るべきと考えるが、どうか。

2. 東京に塩おにぎり店の開設を

魚沼産コシヒカリは全国ブランドである。高速インター名の変更も動き出した。観光誘客の宣伝塔として、塩おにぎり店を開設してはどうか。

12番（議席9番）富永 三千敏 **一問一答**

1. 電子データ化、ICTの推進について

デジタル庁発足を踏まえ、以下のことについてどのように考えるか問う。

- (1) 公文書の電子データ化、各種行政サービスの電子化の必要性についてどのように考えるか。
- (2) リモートによる庁内の会議や他の自治体との会議はどの程度進んでいるか。また、そのための機器の整備、活用方法はどうか。

- (3) 公文書の電子データ化はどのように進んだか。電子文書の改ざんとなりすまし作成を防ぐ電子署名や閲覧ルールの作成、データ流失防御などについて規則や手続きは構築したか。また、セキュリティーは進化したか。
- (4) 子育て、介護などのオンライン窓口の整備やオンライン申請、各種手続きのオンライン化などはどのように進める考えか。
- (5) 古文書などの電子データ化は進んだか。
- (6) 市内小中学校では児童生徒1人に1台のパソコンを配備したが、今後のICT教育の進め方についてどのように考えるか。

13番（議席13番）渡辺 美 一問一答

1. 公共交通施策について

本年3月策定の魚沼市地域公共交通計画に掲げる8つの施策にあるとおり、学生、観光客、高齢者の利用促進を図ることが重要であると考えます。

- (1) 高校生は、上越線の最寄り駅に徒歩で通える子どもに比べ、バスや只見線を利用しなければならない生徒は通学に大きな経済的負担が生じている。真に学びの機会の平等性を確保するには中学校同様、通学に関する費用も無償化が必要であり、路線バスや公共交通の利用促進につながる。高校生に上越線最寄り駅までの通学バス定期券を配付してはどうか。
- (2) 長崎市では路面電車の全線が1日乗り放題の「電車一日乗車券」、京都市では「バス一日券」を販売している。当市でも観光地や温泉施設への新たな運行ルートを設置するとともに、どの路線バスや乗合いタクシーでも利用できる一日乗車券を導入してはどうか。
- (3) 70歳以上の方に、市内のどの地域に住んでいても一律料金で利用できる年間シルバーパスを導入してはどうか。
- (4) 市民からは、空のバスを運行するために多額の税金がバス事業者やタクシー事業者へ財政支援として投入されていることに対して疑問の声が聞かれる。しかし、公共交通を維持するためには財政支援が必要である。従来事業者への財政支援から利用客への財政支援に切り替えれば、公共交通機関の利用促進を図れるだけでなく、市民からも喜ばれると考える。市長は公共交通への当市の財政支援の在り方をどう考えているか。

2. 民間活力の導入と公契約条例の制定について

高度化、多様化した地域の課題は、今や行政だけで解決できるものではなく、公共的サービスの担い手として期待される市民、自治会、コミュニティ協議会、民間事業者等との連携や民間活力の導入を図り、地域課題に取り組む活動を通じた地域活性化も視野に入れながら、行政サービスの維持向上を目指す必要がある。会計年度職員の安定的な雇用環境や魚沼市に雇用の場を増やすこと、またIターン、Uターンの促進にもつながると考えることから、以下について市長の見解を問う。

- (1) 子育ての駅の民営化について市長の見解を問う。
- (2) 更なる保育園民営化の推進について市長の見解を問う。
- (3) 地域包括支援センターへの障害・生活困窮等の窓口相談業務のアウトソーシングについて市長の見解を問う。
- (4) 民間活力導入における、会計年度任用職員の移行に伴う処遇の改善のための公契約条例制定について市長の見解を問う。

14番（議席17番）本 田 篤 一括

1. ワクチン行政について

1980年代まで、日本はワクチン先進国であったが、ワクチンの健康被害が社会問題となり、いつしか行政は予防接種に対して積極的な関与を行わなくなってしまった。平成22年に全国に先駆けて、HPVワクチン接種希望者に対する全額公費助成、積極的勧奨を行った魚沼市も、同様の背景の中で廃れてしまった。

さて、令和の時代、新型コロナウイルスの猛威が止まらない中、当市の新型コロナワクチンの接種率は若年者を中心に低下していると聞く。SNSからの情報で副反応を危惧してワクチン接種をためらう人が多いことも一因のようだ。接種すべきかどうか、どう判断したらよいのか難しい状況にあると思うが、新型コロナワクチンに限らず、ワクチンは大きな目で見ると、メリットが大きい事実はある。ワクチン接種に対する効果やリスクの十分な説明と接種することへの同意を得る環境づくりは市の役目であると考えます。また、市としてもワクチンの積極的な接種の呼びかけを行うべきと考えます。市長のワクチン行政の基本的な姿勢を問う。

2. 人が集う場所でのWi-Fi完全設置を

市民及び本市への来訪者の利便性向上を目的とし、市内の各庁舎や公共施設において無料でインターネット接続を利用できる公衆無線LANを設置しているが、家計の負担軽減、情報格差の解消のためにも、より一層の利便性を求めたい。

温泉施設、スキー場など指定管理の施設を含めた公共施設に加え、駅、道の駅など、人が集う場所でのWi-Fi完全設置ができれば素晴らしいと考える。

- (1) 公共施設への積極的導入を考えないか。
- (2) 店舗も含め、Wi-Fi設置の補助制度があってもよいと考えるがどうか。
- (3) 利用箇所を一元化したサイトがあるとよいと考えるがどうか。
- (4) 有事の際においても、情報収集手段として利用できるとしているが、施設が停電した場合や多人数がアクセスした場合も対応は可能か。

15番（議席10番）志田 貢 一括

1. 佐梨川の護岸周辺の整備について

7月29日に撮影された佐梨川鉄砲水の動画はとても印象深かったが、注意喚起ばかりでなく、佐梨川護岸周辺の整備も行う必要がある。

佐梨川は清流として知られ、上流には多くの釣り人が訪れる一方、下流には河川公園や河川整備による水遊びスポットなど、レクリエーションの場が豊富に点在している。特に下流域で多くの人々が訪れるビハーラ佐梨川、吉田橋から野口の環境整備を改めて見つめ直すべきと考える。注意喚起の伝達方法の見直しと避難経路の確立を行い、平時からの利活用を狙い、臭気対策や草刈り、施設修繕など多目的に行うべきと考えるがどうか。

2. 介護士の雇用について

介護員不足を理由に、デイサービスの営業日を縮小せざるを得ない事業所もあると聞く。人材不足を解決しなければ、介護の課題も解決しない。

魚沼市に、介護人材の潜在性がないとすれば、人材を市外から募る必要もあると考える。自治体連携の中で人材を引っ張ってくることはできないか。また、外国人技能実習生等の見込みはあるか。ここに市も関与できないか。

16番（議席8番）大平恭児 一問一答

【メモ】

1. 新型コロナウイルスワクチンと検査体制について

- (1) ワクチン接種対象者ではない12歳以下の子ども達への感染拡大が懸念される。その対策を問う。また、高校生、専門学生、大学生へのワクチン接種の現状と早期接種への対応はどうか。
- (2) 感染が広がった場合には、どうしても一時待避所、療養場所が必要である。具体的に考えてはどうか。市内公共施設や民間の宿泊施設も考えておくべきと思うがどうか。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐには、PCR検査などで無症状者を早く見つけ、治療し保護することが重要である。PCR検査及び抗原検査の無料化を進める考えはないか。

2. ごみの減量化

温暖化による世界的規模の気候変動は人類を脅かすものであり、廃棄物処理による二酸化炭素の大量排出や、廃プラ処理をめぐり重大な環境汚染が存在する。自治体でも率先した対策が求められている。

- (1) 魚沼市のごみリサイクル率は、非常に低い。生ごみの堆肥化など、資源ごみの品目を大幅に増やし、リサイクル率を引き上げるべきと考えるがどうか。
- (2) 廃プラ処理はリサイクルだけでなく、プラスチックを使用しないことが重要だと言われている。市の事務事業で脱プラスチックを率先して取り組む考えはないか。
- (3) 自然環境を守り、温暖化を防ぐためにも、大量消費、大量廃棄をこのまま続けることはできない。事業者や市民一人一人の意識改革が求められる。魚沼市独自の「ごみゼロ宣言」も検討すべきと考えるがどうか。

3. 公共施設再編の在り方について

市と市民の大切な共有財産である市内の公共施設については、お互いに時間をかけてじっくりと考えていく必要がある。後世に禍根を残さないような姿勢で取り組むことが重要である。

- (1) 公共施設本来の果たすべき役割は何か。
- (2) 各地域にある公共施設を考えていくことは、地域づくりのもとになる要素を持っている。また、住民に直接関わるものであり、住民がこの計画の実施に主体的に深く関わるのが重要である。早期に住民との検討の場を具体化する考えはないか。

(3) 公共施設は、施設によっては住民がその場所の歴史的経過を知り、新たな価値を見いだす機会にもなる。市が保有している施設ごとの資料は積極的に公開して、住民にも周知しながら再編を進めていくべきと考えるがどうか。